

関さんの森 昔のくらし館 設置及び冊子発行 事業

(令和7年度松戸市市民活動助成事業)

2026.1 月 関さんの森エコミュージアム

松戸市幸谷の関家は、江戸時代、幸谷村曲淵氏知行地の名主をつとめていました。江戸時代に建てられた門や蔵、蔵の中には古文書や昔の生活用品が、今も貴重な歴史・文化遺産として残っています。

関さんの森エコミュージアムでは、今年度、関家に保存されてきた文化財を保存・展示する「昔のくらし館」を設置し、関家の古文書を読み解いて村人の生活の記録を解説した本を発行する事業に取り組んでいます。事業は、「令和7年度松戸市市民活動助成事業」としておこなっています。

『昔のくらし館』を開館します

関家に残る昔の生活用品の調査は、間もなく終了し、目録が完成します。生活用品の一部は、江戸時代に建てられた雑蔵(ぞうぐら)の1階部分に展示していますが、市民活動助成事業を契機に、展示方法などを見直して、『昔のくらし館』としてリニューアルオープンします。



春の雑蔵…天明5年/1785年建造



現在の雑蔵展示室

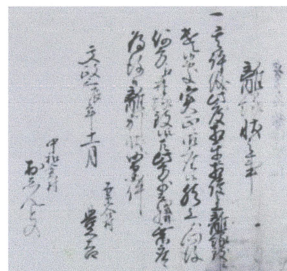


展示用品の一部(座繰機)

『関家の古文書をよむ』(関さんの蔵通信 100号記念誌)を発行します

関家に残る古文書は約 3,500 点。関さんの森古文書の会が調査・保存し、読み解いた知見は 2012 年から「月刊新松戸」に連載してきました。これを整理し、幸谷村民の生活、領主とのかかわり、災害への対応、村の事件など 10 章にまとめた冊子を発行します。

冊子は A5 版 192 ページ。2025 年 11 月に完成しました。図書館や学校など関係各所に献本するほか、開館記念イベントでは、参加された方に配布します。



『昔のくらし館』開館記念イベント(2026年3月29日(日)を予定)を実施します

事業のまとめとして、『昔のくらし館』開館記念のイベントを 2026 年 3 月 29 日(日)に開催します。

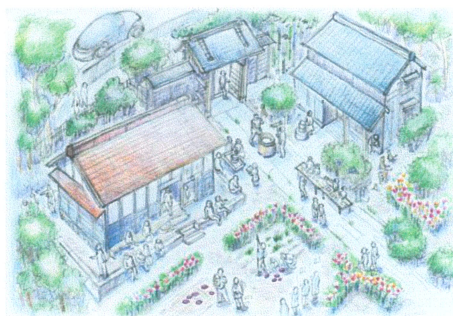
3 月末の関家の庭は、桜が見頃。関家の庭には、樹齢 120 年の染井吉野など 10 種類の桜や、樹齢 200 年を超える古木があります。また、地域の人たちに信仰された『熊野権現』という小さな祠もあります。

イベントでは、満開の桜のもと、リニューアルオープンする『昔のくらし館』をご案内します。展示された昔の生活用品をご覧ください。古文書の展示コーナーも乞うご期待。参加された方には、冊子『関家の古文書をよむ』を配布します(限定 200 部)。この他にも楽しく学べる企画を検討しています。

関さんの森エコミュージアム

関さんの森は、江戸時代から続く古い屋敷を中心に、屋敷林や梅林など 2.1ha の里山空間。このうち 1.7ha は都市緑地法による特別緑地保全地区として、現状のまま保存されることが決まっています。これらの緑地は「関さんの森を育む会」が維持管理しています。『幸谷関さんの森昔のくらし館』は、これらの緑地と一体になり、歴史や文化を学ぶ場所としての公開をめざし、「関さんの森エコミュージアム」が整備をすすめています。

関さんの森の最新情報は HP をご覧ください→



『昔のくらし館』のイメージ